

〈大分県中津市長〉

〈深谷市長〉

奥塚正典 × 小島進

特別対談『1万円札』肖像バトンタッチ

7月3日に、渋沢栄一翁が肖像となる新1万円札が発行されます。そこで、1万円札の顔として最長の40年活躍された福澤諭吉先生の故郷、大分県中津市の奥塚市長と小島市長が、福澤先生と栄一翁の共通点や、互いのまちのことについて語り合いました。対談は、中津城石垣を望める中津市歴史博物館で行われました。



福澤諭吉（ふくざわ ゆきち）
1835（天保5）年～1901（明治34）年

天は人の上に人を造らず、
人の下に人を造らず

明治の代表的な啓蒙思想家。父は中津藩士で、福澤が生まれた当時は大坂の蔵屋敷詰であった。父の死後、中津に戻り、儒学者白石常人に師事し、その後大坂に出て、緒方洪庵に蘭学を学ぶ。1860年から1867年にかけて遣欧米使節に3度参加し、『西洋事情』などの著作を通じて欧米文化を紹介した。1868年に自ら教えていた塾を慶應義塾と命名。明治以降官職に就かず、位階勲等を受けなかった。『学問のすゝめ』、『文明論之概略』など多数の著作を発表した。

肖像出典：国立国会図書館『近代日本人の肖像』



渋沢栄一（しぶさわ えいいち）
1840（天保11）年～1931（昭和6）年

約500の企業に関わる
近代日本経済の父

明治・大正期を代表する実業家。深谷市血洗島生まれ。一橋家に仕え、1867年にパリ万国博覧会に出席する徳川昭武に随行し、欧州の産業、制度を見聞。1869年に新政府に出仕し、1872年に大蔵大丞となるが翌年退官し実業界に入る。第一国立銀行の総監督、頭取ほか、王子製紙など多くの企業の創立と発展に尽力。『論語』の徳育と経済活動は表裏一体とする『道徳経済合一説』を唱える。1916年に実業界から引退後も福祉事業や国際親善に力を注いだ。

肖像出典：国立国会図書館『近代日本人の肖像』

同じ時代を生きた
二人の偉人

奥塚市長 小島市長、お久しぶりです。中津市へ、ようこそおいでくださいました。

小島市長 奥塚市長、お久しぶりです。おとしの10月に深谷にお越しいただいた以来ですね。今日もこうして縁あってお話しすることとは、何かすごい意味があるような気がします。

奥塚市長 そうですね。そしていよいよ、栄一翁が肖像となる、新1万円札が発行されますね。

小島市長 いよいよですね。1万円札の肖像のバトンタッチとなる福澤先生と栄一翁が、同じ時代を生きたというのがすごい奇跡ですね。実は二人は、思いや考え、生き方も、すごく似ている部分がありますよね。

奥塚市長 よく栄一翁は儒教、福澤先生は西洋思想という見方をされますけど、二人のことを調べると、気持ちの部分であったり、共通した部分が多いですね。

小島市長 実践や行動力という部分も共通していますし、あとは、身分制度への思いもですね。栄

将棋と想いを交える

小島市長 栄一翁はよく500もの企業に関わった『近代日本経済の父』と言われますが、実業界を引退した後は、東京市養育院をはじめとした、福祉事業に力を入れたり、明治神宮の創建に関わったりと、お金を儲けるのは悪くないんだけど、それを世の中のために使おうという思い、つまり『道徳経済合一』の考えが生涯にわたって一貫しているなと思います。

奥塚市長 福澤先生も自身で創刊した時事新報の中で、初志を貫いて実業界で成功した栄一翁の生き方が、模範だとたたえています。福澤先生も、1万円札の肖像を、良い人が引き継いでくれたと思っているんじゃないかな。

小島市長 良かったのは、福澤先生が栄一翁より57年上なんですよ。先輩の後を継ぐということ、栄一翁はどう思っているかな。後年、二人が大隈重信邸で、将棋を打ち合ったことがあるというのがまた面白いですね。

奥塚市長 福澤先生は栄一翁に『商人にしては割合強い』と。小島市長 それに対し、栄一翁は



奥塚 正典（大分県中津市長）

一翁は富農の生まれではあったけど、お祝い事などのたびに、藩主から御用金を取り立てられ、また代官の態度に憤りを覚えていたと。奥塚市長 福澤先生も『門閥（身分）制度は親の敵』と言っています。その思いが、二人の実践や行動の原動力になっていますよね。

影響を受けた母の優しさ

小島市長 お母さんの優しいさというのも共通していますね。

奥塚市長 福澤先生のお母さんは、家がなく、着物がぼろぼろの女の子を庭に呼び入れ、シラミをとって、シラミをとらせてもらったお礼として握り飯を作って食べさせたという、心の優しい、情が

福澤諭吉の故郷
大分県中津市

人口 81,681人
(令和6年5月末現在)

面積 491.44km²
(令和6年現在)

大分県の北部に位置し、大きく中津地域、三光地域、本耶馬溪地域、耶馬溪地域、山国地域に分かれます。

肖像出典：国立国会図書館『近代日本人の肖像』

若くして海外渡航を経験

小島市長 福澤先生も栄一翁も、

深い人だったといえます。小島市長 栄一翁のお母さんも、共同風俗で、当時、未知の病であったハンセン病の女性と人浴し、背中を流してあげたという話があります。お母さんの優しさというのが、後の福祉事業の原点になったのかなって思います。

奥塚市長 経済を発展させること

によって、みんなが豊かにならなきゃいけないという思いの中、弱い人々を助けていこうという気持ちで、福澤先生は教育の分野で、栄一翁は福祉の分野でよく表れています。



小島 進（深谷市長）

20代で海外に渡っています。福澤先生は27歳の時に咸臨丸でアメリカに、そして栄一翁も同じ27歳の時、随行でヨーロッパに行っています。二人は、カルチャーショックを受けながらも、今の日本はどうするべきかと考えたのでしょうか。

奥塚市長 そうですね。二人とも若くして広い視野を持ち、海外に出て学んでいますよね。

小島市長 本心に、この人がいたから今の日本があるという二人です。おかげさまで、栄一翁は大河ドラマになりましたけど、本当は福澤先生も大河ドラマになるべきなんです。

奥塚市長 嬉しいお話ですね。

『へぼ学者にしては強い』と返したんですよ。この感謝だけでもお互いに認め合っていることが感じられますね。

奥塚市長 思いが似ていて、今の日本を、違った角度からつくった二人ですから、認め合っていたんでしょうね。

偉人を通したまちづくり

小島市長 二人はそれぞれのまちの誇りですし、子どもたちが二人の思いを、心の糧にして育つてもらいたいと思います。

深谷市では、学校教育の中で、副読本を作り、時間をかけて『渋



▲対談は、両市の偉人の肖像と、中津市で生産が盛んな『大分味一ねぎ』と深谷市の『深谷ねぎ』を前に行われました

沢栄一翁』と『翁』を付けて呼んできました。おかげさまで、今では、子どもたちはみんな、敬意と親しみを込めて『栄一翁』と呼んでいます。福澤先生は、中津市ではどう呼ばれているんですか。

奥塚市長 まちの人も、子どもたちも『福澤先生』と呼びますね。中津市も深谷市と同じく、子どもたちに福澤精神を引き継いでいくことが大切だと考えています。毎年、小学校では福澤諭吉のカルタ大会、中学校で、『独立自尊』など、福澤先生の言葉を課題にした書道大会を実施しています。また、高校生を対象に、福澤先生の教えを継承する全国弁論大会を実施し、60回を超える伝統の大会となっています。

小島市長 素晴らしいですね。栄一翁も、『立志の精神』や『忠恕の心』、そして『論語と算盤』などの有名な言葉や精神があるので、中津市の教育や取り組みを参考にさせていただきます。

人づくりが未来につながる

小島市長 教育つて要は『人づくり』で、栄一翁は500もの企業に関わっていますが、それは1人

いう小ネギの生産が盛んなんです。

小島市長 そうなんです。ネギといえば、深谷市から始まったネギの産地が集結する『全国ねぎサミット』がありますよ。中津市も、ぜひ参加してもらえたら嬉しいですね。あと中津市といえば、唐揚げと鰻も有名ですよ。

奥塚市長 そうですね。鰻の骨切りは中津で生まれ、全国に広まったとも言われています。

小島市長 深谷には栄一翁の愛した麺料理、煮ほうとうがあるんですが、唐揚げ、鰻、煮ほうとうがあれば、『しめ』までいけますね。

奥塚市長 まさに、食でもつながれますね。

お互いの市へメッセージ

奥塚市長 福澤先生と栄一翁は、幕末から明治にかけて、苦難の道を自らの強い意志で乗り越え、日本の礎を築いた二人です。その二人が1万円札の肖像をバトンタッチすることは、今後の深谷市と中津市の関係を強化することにもつ

大分県中津市ってこんなところ中津市早分かり

田官兵衛が築城した『中津城（奥平家歴史資料館）』や福澤諭吉が過ごした『福澤諭吉旧居』、蘭学に関わる施設やお寺が立ち並ぶ風情ある街並み『寺町』など、数多くの見どころがあります。



中津からあげ

こだわりの下味をつけ、揚げたてジューシーなからあげ

塩 だれや醤油だれ、ニンニクやショウガなど、お店ごとにこだわりと独自の味付けで提供しています。



やばけい 耶馬溪

日本新三景、国名勝、日本遺産の3大タイトルに輝く

福 澤諭吉が、景観保全のために私財を投じて土地を購入し、守った自然美は、人々を魅了し続けています。



ではできないことで、どれだけの人を巻き込んで、人と人をつないでかという『人づくり』をしているんだと思います。

奥塚市長 福澤先生も『学問のすゝめ』による『人づくり』はもちろん、慶應義塾を拠点に、実業界、政官界などで活躍し、『福澤山脈』と呼ばれるほどの『人づくり』を実践していました。

小島市長 そうやって福澤先生の門下生がいろんなところで活躍しているでしょう。深谷市でも、栄一翁が関わった東京商工会議所をはじめ、12者で栄一翁の顕彰に関する包括連携協定を締結するな

ながっていくと思います。

また、次の世代につないでいくために、小島市長から提案がありました。子どもたち同士の交流をぜひ推進したいと思いますし、それぞれのまちが持つ特徴を生かして、さらに良いまちづくりに励むことができればと思いますので、よろしく願います。

小島市長 新札が発表されて、深谷市はどうしようかという中で、中津市の福澤先生の顕彰事業や取り組みがとても勉強になりました。同じ時代に生きた二人の生き



▲中津城と中津城石垣を背景に、福澤諭吉と渋沢栄一が握手するイラストを手にする奥塚市長と、小島市長

方を、中津市と連携して伝えていき、これからも我々のまちづくりの見本として、いろいろなと教えていただきたいと思います。

そして、奥塚市長がおっしゃったように、これからの中津市、深谷市を担う子どもたちが、福澤先生、栄一翁の生き方や考え方を、つないでいてもらいたいと思いますので、今後ともよろしく願います。奥塚市長、今日はありがとうございました。